

◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
②	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
③	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか

分析	<p>①2年時の総合は進路学習などを計画的に行い、単に調べるだけでなく、発表方法の形態を工夫させ、自主的に活動するようにしたことが全国平均より大きく上回る結果になったと思われる。</p> <p>②グループ活動などで言語活動を活発に行うことで、自分事として考える力が身についている。提示された課題に対して、生徒たちは教師の予想以上のものを生み出し、それを教師は確実に評価した。学習に対する良いサイクルができています。</p> <p>③自分の意見を書いたり、考えたことを発表したりする場面が設定されており、自分の意見をもとうという姿勢につながっている。</p>
2学期からの取り組み	提出されたものは正當に評価し、早めに返却する。定期的に評価していくことで学習意欲を維持させる。

【 数値が特に低かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか
②	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか
③	

分析	<p>①4時間以上学習している割合は全国平均を大きく下回るが、全くしないという割合も低く、2時間以上学習する割合も多いので、大きな問題ではないと思われる。</p> <p>②読書に関しても同様である。</p>
2学期からの取り組み	部活動が終わったので、入試に向け、放課後学習会を軸にして、学習時間を確保させる。

◆令和3年度全国学力・学習状況調査《 3年生 国語科 》

全体の概要

県と比較すると全ての領域で上回っている。全国と比較すると数問下回っている領域があるが、多くの領域で上回っている。

「書くこと」「読むこと」は特に上回っている。言語事項に苦手が見られる。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書き ・敬語 ・言葉の使い方 <p>特に「言葉の使い方」では、ピンポイントでその言葉の意味を聞かれると弱い。文章中では前後の文脈から推測しているようである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい言葉や普段あまり使われなくなった言葉を生徒に調べさせ、発表させる。 ・授業者自身をもっと言葉に敏感になり、授業中の生徒の何気ない言葉に反応するなど、着目させる。意識させる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・条件作文 <p>数人の会話から内容を理解し、それに対するの反論を考えるのが苦手。 情報が多いと処理ができない生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・条件作文の練習として、相手の意見を理解して相手の立場になって書くこと、相手の意見に反論するように書くことなど、多くのパターンに慣れる。 ・話し合いやディベートを授業に多く取り入れ、相手の意見を聞いて自分の意見を持つことに慣れる。

◆令和3年度全国学力・学習状況調査《 3年生 数学科 》

全体の概要

全ての領域において、全国・県ともに平均を大きく上回っている。それとともに無解答率も低くなっている。ただ、正答率が50%以下の生徒が20%おり、その生徒たちへの支援が必要である。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の概念の理解度を調べる問題においては、正答率が他の問題に比べて低くなっている。 ・㊦(1)の文字の式の基本計算ができていない生徒が13%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の定着のために、似たような問題に何回も取り組ませる。 ・文字を使った数の表現について、復習させる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「資料の活用」領域分野では、記述問題の思考判断における正答率が高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、説明文の書き方について、取り組んでいく。 ・長文をしっかり読み取り、解を導くことが必要である。そのためには、読解力を身につける問題に多く取り組んでいく。